言・６　ていねい語の使い方を知る。

言

６

を使って、ワンランクアップ

 年 　 組

ゴール　相手や場面に応じてを使おう。

一　次の　　　　　の言葉をになおして書きましょう。

①先生が画を見る。　　 →（　 　　　　　　 　）

②ゲストティーチャーが来る。　　　　　　　 →（　　　　　　　　　　　　 ）

③となりのおじょうさんが着物を着る。　→（　　　　　　　　　　　 ）

④教授が言う。　　　　　　　　　　　　　　　　→（　　　　　　　　　　 　）

⑤社長さんがディナーを食べる。 →（　　　　　　　　　　　 　）

・になおすことができた。　　　　　　　　　　　　　　　　（　　　　）

・相手や場面に応じてを使うことができた。　　　　　(　　　　)

ふりかえり

二　一の①～⑩のになおした文を声に出して読んでみましょう。

⑥明日、おに行きます。　　 →（　　　　 　　　　 　 ）

⑦の考えを言います。　　　　　　　　　 →（　 　　　　　　　　　 ）

⑧賞品をあげます。　 →（ 　　　　　　　　 ）

⑨おをもらった。　　　　　　　　　　　　　→（ 　　　　　　　　　　）

⑩の絵を見る。 →（　　　　　　　　　　 　）

【敬語】

○ていねい語

相手（あまり親しくない人や大勢の人）に対して、につかう言葉（「です」「ます」や、「ございます」など）

○語

相手(目上の人やする人)をうやまう気持ちを表すときにつかう言葉

○けんじょう語

自分や身内の動作をけんそんして言うことで、相手へのを表すときにつかう言葉



言・６　ていねい語の使い方を知る。

言

６

を使って、ワンランクアップ

 解　答　例

ゴール　相手や場面に応じてを使おう。

一　次の　　　　　の言葉をになおして書きましょう。

①先生が画を見る。　　 →（　 ごらんになる 　）

②ゲストティーチャーが来る。　　　　　　　 →（　　いらっしゃる　　　 ）

③となりのおじょうさんが着物を着る。　→（　　おめしになる 　 ）

④教授が言う。　　　　　　　　　　　　　　　　→（　　おっしゃる　　　 　）

⑤社長さんがディナーを食べる。 →（　　めしあがる　　　 　）

・になおすことができた。　　　　　　　　　　　　　　　　（　　　　）

・相手や場面に応じてを使うことができた。　　　　　(　　　　)

ふりかえり

二　一の①～⑩のになおした文を声に出して読んでみましょう。

⑥明日、おに行きます。　　 　 　　　　→（　　うかがいます　　）

⑦の考えを言います。　　　　　　　　　 →（　 もうしあげます　　）

⑧賞品をあげます。　 →（ さしあげます　　 ）

⑨おをもらった。　　　　　　　　　　　　　→（ いただいた　　　　）

⑩の絵を見る。 →（　　はいけんする　 　）

【敬語】

○ていねい語

相手（あまり親しくない人や大勢の人）に対して、につかう言葉（「です」「ます」や、「ございます」など）

○語

相手(目上の人やする人)をうやまう気持ちを表すときにつかう言葉

○けんじょう語

自分や身内の動作をけんそんして言うことで、相手へのを表すときにつかう言葉

